

J Aグループ初 あいち経済連

植物病院を設置

栽培・防除多様化対応 農家の支援強化

J Aあいち経済連は23日、大学や民間企業のネットワークを生かして病害虫や生理障害を診断する「植物病院」を、愛知県豊橋市の営農支援センター内に設けたと発表した。植物病院は東京大学が提唱する仕組み。全国に4カ所あるが、J Aグループでの設置は初めて。栽培方法や防除方法の多様化に対応し、診断の精度やスピードを上げることで農家の支援を強化する。

生産現場では、天敵昆蟲の活用など化学農薬だけに頼らない防除方法が広がっている。養液栽培や環境制御技術の普及で害虫や生育異常などの発生内容が変化してきた。

新設したのは「東京大

増えていくという。

虫の活用など化学農薬だけに頼らない防除方法が広がっている。養液栽培や環境制御技術の普及で害虫や生育異常などの発生内容が変化してきた。この結果、目視や顕微鏡検査による診断では、原因を特定できない症例も

学連携J Aあいち経済連植物病院」。病害虫・雑草の知識が豊富で、日本植物医科学協会認定の「植物医師」1人を置く。県内の組合員からJ Aを通じて持ち込まれた植物の病気を診断する「植物病院」を愛知県豊橋市の営農支援センターに設置したと

全国の植物医師が蓄積し

てきた病害情報も活用する。判別が難しい症例は、東京大学植物病院と連携して診断する計画だ。

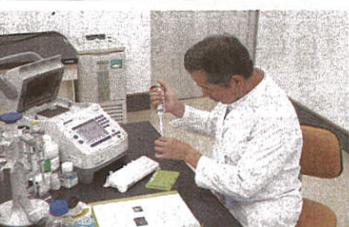
検査手法として免疫反応を利用する「イムノアッセイ法」と遺伝子検査を導入する。細菌病であるトマトのかいよう病や青枯病、ウイルス病である黄化葉巻病など計8種類の病気に対応。確定が

予定する。営農総合室の橋本健室長は「診断の精度が高くなる。外部と連携することで、防除対策を強化していく」と話す。

経済連は今後、全国の植物医師を招き、営農指導員を対象とした研修会を予定する。営農総合室の橋本健室長は「診断の精度が高くなる。外部と連携することで、防除対策を強化していく」と話す。

J Aを通して持ち込むと、診断が受けられる。

東京大など全国四カ所の大学や企業が運営する植物病院の情報網があり、画像診断や難しい症例への対応に生かす。これまでセンターで行ってきた目視や顕微鏡による診断に加え、新たに免疫反応や遺伝子検査による判定法を導入し、いち早く原因特定を図る。担当者は「病害虫や栽培法が多様化し、より迅速な診断と対策が必要になっている」と話している。



病害虫の特定に取り組む植物医師=愛知県豊橋市で

中 二 三 五 月 2018年(平成30年)10月24日(水曜日)

7 地域経済 12版

2018年(平成30年)10月24日(水曜日)

農作物の病気診断

豊橋に「植物病院」

J Aあいち経済連

発表した。植物病院は全国で五カ所目でJ Aでは初めて。一日に稼働した。

J Aあいち経済連(名古屋市)は二十三日、農作物の病気を診断する「植物病院」を愛知県豊橋市の営農支援センターに設置したと

解説文

青果物や花に病害虫が見つかった場合、日本植物医科学協会が認定する植物病害の専門家「植物医師」に相談できる。障害が出ている植物体や画像を提出すれば、J Aの植物医師が診断を行なう。



病害虫の特定に取り組む植物医師=愛知県豊橋市で